

由仁町「ムカデ祭り」が地域社会に与える影響

第1節 「ムカデ祭り」の概要

「由仁町夏祭り・百足競争」は、由仁町の夏の風物詩と言われている。1975年に初めて開催され、今年で第41回目の開催となった。その名前から分かるように、祭りのメインイベントは百足競争であり、大人6人がロープで足を結んで走り、その順位を競うものである。由仁町の百足競争は北海道で一番古い歴史を持っており、毎年8月第1週に開催される。しかし、このお祭りの見所はレースだけではない。お祭りの会場には沢山の屋台が立ち並び、子供縁日やフリーマーケット、餅まき、ダンスパフォーマンス、馬追太鼓と呼ばれる伝統音楽の演奏、消防ハシゴ車搭乗体験・シートベルト効果体験車、ビンゴ大会など、1日中楽しめるお祭りになっている。

このお祭りは、由仁町において最大規模で、1年の間でこれほど盛り上がるお祭りは他にないと言っても過言ではないだろう。そこで、本稿では、この「百足祭り」が第1回から現在までどのように変化してきたのか、来場者数や開催場所の変化、部門に関して調査した後、このお祭りが地域社会にどのような影響を与えているかについて考察する。

第2節 第1回から現在までの変遷

百足競争は、元々昭和22年、由仁町青年連盟(会員数1250人)の頃、レクリエーションの一環として行われていたものに由来する。翌年、北海道農協青年部協議会の発足に従事した由仁町の青年達が行事の一部に百足競争を提唱し、実施されたと言われている。昭和50年8月9日に第1回百足祭りが由仁駅前前で正式に開催され、百足祭りが町の一大行事になった。第3回には女子の部が、第4回にはちびっこの部が正式に設立された。ここから、青年のみならず女子や子供も参加可能となったことでますます町を代表するお祭りになっていったと言える。第5回にはコースが由仁駅前前の道路から由仁駅裏の道路へ変更された。従来に比べ広い場所を祭りの会場として設定することで屋台や各種イベントが更なる盛り上がりを見せ、多くの人が祭りに参加するようになった。この点で、会場を変更した意義は大きなものがあると言える。筆者は考える。

しかし、町の人口減少に伴う参加チームの減少、運営スタッフの後継者不足により、百足祭り実行委員会は第36回の開催をもって解散する等、一時期この祭りの廃止も囁かれることがあったという。そこで、第37回目では、「来たれチャレンジャー！」というキャッチフレーズの元、参加チームを町外からも募集し、より多くの人がこの祭りに参加することが可能となった。その結果、第37回目の年には総勢46チームだった参加チーム数が、第40回目には63チームに増加した。近年は、由仁町の友好姉妹都市である愛知県碧南市からも毎年数チームが百足競争に参戦しているようだ。従来の百足祭りは、参加者が町民に限られていたため百足競争は町内の地区対抗戦という印象だった。この前提を覆すことは、容易なことではなかっただろう。しかし、この伝統を維持、また、更に盛り上げるためには町内に留まらず町外への広報活動や町外住民の参加も必要不可欠であると筆者は考える。一つの町の人口減少・少子高齢化が深刻な問題になりつつある北海道の各自治体が今後も存続しその伝統・文化を保持するためには、市町村間における連携・協力が不可欠

なものとなるに違いないだろう。

現在は、一般男子の部(中学生以上の男子で構成される部門)、一般女子の部(中学生以上の女子で構成される部門)、ちびっこの部(町内の小学生で構成される部門)、ナイスミドルの部(選手全員が35歳以上のメンバーで構成される部門)、ハイミドルの部(選手の年齢の合計が300歳以上のチームの部門)、障害物レース、カルガモレース(1チーム親子3名又は親子3世代で構成される部門)の7つの部門が存在している。ここから、現在百足祭りは老若男女や由仁町民であるか否かを問わず多くの人が楽しめるお祭りとなっていることが分かる。

第3節 このお祭りが地域社会に与える影響

このお祭りが地域社会に与える影響として、主に2つのことが挙げられる。1つ目は、百足祭りへの参加によって地域住民との連携が強化出来る点である。百足祭りでは、基本的に同じ自治区や同じ職場、同じ部活のメンバーと出場するチームが多く見受けられる。一つの目標に向かって努力するという事は、文字で表せばそれだけの事だが、彼らにとっては間違いなく有意義な体験である。事実、筆者も小学校1年から中学3年の時まで9年間幼馴染と出場し続けたが、百足競争が我々の絆をより強固なものにしてくれたという点で価値のある経験になっているし、故に子供の教育という側面から考えても有意義な体験であるに違いない。更に、もう1つの影響として、由仁マルシェなど地域の特産品の販売による町のアピールの推進である。由仁マルシェとは、由仁町内で定期的開催されている対面販売の直売会のようなものであるが、百足祭りには由仁マルシェが屋台という形で設置されている。ここでは由仁町で収穫された農産物やそれを用いて作られた加工食品が売られているため、由仁マルシェは由仁町を町内外に広くアピールするための重要なアクターになっている。また、障害物レースの部では、レースの終盤に食べ物が置かれているのだが、その食べ物が由仁町産の農産物や加工食品なのである。ここで、町外から参加したチームにも由仁町の基盤産業である農業を大いにアピールすることが出来る。故に、百足祭りは地域住民との連携を強化し、由仁町の特産品を通じた農業や町のアピールにも繋がっているという点で、地域社会に大きな影響を与えていると言えよう。

第4節 結論

本稿では、由仁町の百足祭りを通じ、地域社会にどのような影響を与えているのかを考察した。第3節でも述べたが、百足祭りは地域住民との連携を図るいい機会でありながら、更に由仁町の特産品を通じて農業や町のアピールにも繋がりをいう利点も持つと筆者は考える。つまり、百足祭りは由仁町の伝統文化として根付いているだけではなく、経済活性化や地域振興に大きな役割を果たしていると言える。過疎化が進む北海道の地方社会において、このような文化遺産が失われることは町の衰退を意味すると言っても過言ではないだろう。今後、更に町の人口は減少すると予想されるため、どのように参加者を確保するかが最も大きな課題であると考えられる。また、この問題は祭りの存続にも直結した問題となってくるだろう。そのためには、各自治体で子供達や若者の祭りの参加を促すこと、町内外への更なる宣伝が必要不可欠になると筆者は考える。